

品目別に見た日本とメコン3カ国間の輸出入の変遷に関する研究

専修大学商学部 岩尾詠一郎

A Study on the Changes in Import and Export between the Japan and the Mekong
Three Countries
Senshu University, School of Commerce Eiichiro Iwao

本報告では、ASEAN 諸国のうち、2015 年の ASEAN の経済統合に向けて、工業団地が多く整備されるなど、経済発展が著しいと考えられるメコン川流域のカンボジア、ベトナム、タイの3カ国を対象に、2003 年から2013 年の日本との輸出入の実態から、輸出品目、輸出入金額、輸出入量の変化を明らかにすることを目的に分析を行った。

その結果、日本とカンボジア、ベトナム、タイの3カ国間の輸出入では、日本からカンボジア、ベトナム、タイの3カ国への輸出入額、輸出入量ともに、概ね増加傾向が見られる。主な輸出入品目には、大きな変化が見られなかった。日本とカンボジア、ベトナム、タイの3カ国間の1億円当たりの輸出入トン数の変遷では、輸出入ともにカンボジアの伸び率が低いこと、タイから日本への輸出入では、大きな変化が見られなかったことが明らかとなった。

キーワード：カンボジア、ベトナム、タイ、輸出品目、輸出入額、輸出入量

This report was carried out aimed to change in item, amount and weight in the import and export between Cambodia, Vietnam, Thailand and Japan.

As a result, by import and export between three countries of the Japan and Cambodia, Vietnam, Thailand, the following three points became clear. First, imports and exports from Japan to the Cambodia, Vietnam, Thailand amount and the weight are generally increasing. Second, the main import and export items, there is not major change. Third, Import and export tonnage per 100 million yen has particularly low growth rate in Cambodia. Furthermore, import from Thailand is not major change.

Keywords : Cambodia, Vietnam, Thailand, import and export item, import and export amount, import and export weight

1. 本報告の目的と方法

本報告では、ASEAN 諸国のうち、2015 年の ASEAN の経済統合に向けて、工業団地が多く整備されるなどにより経済発展が著しいと考えられる、メコン川流域のカンボジア王国（以下、カンボジア）、ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）、タイ王国（以下、タイ）の3カ国を対象に、2003 年から2013 年の日本との輸出入の実態から、輸出品目、輸出入金額、輸出入量の変化を明らかにすることを目的とする。

また、本報告では、まず、①メコン3カ国の概要と輸出入の実態を示し（2章）、次に②日本とメコン3カ国間の2003年から2013年の間の国別・品目別の輸出入量、輸出入金額の変遷を明らかにする（3章、4章、5章）。最後に③輸出入貨

物1億円当たりの輸出入トン数をメコン3カ国別に求め2003年から2013年の変遷を示すとともに、2003年と2013年の間の伸び率から、輸出入の特徴を述べる。

2. メコン3カ国の概要と輸出入の実態

2-1. メコン3カ国の概要

(1) メコン3カ国の概要を示す指標

ここでは、メコン3カ国の概要を、①2013年の人口、②2003年に対する人口増加率、③2013年の人口密度、④2013年のGDP、⑤2003年に対するGDPの伸び率、⑥2013年の1人当たりGDP、⑦2010年の主な産業のGDP割合、⑧2000年の主な産業のGDP割合、⑨2013年の消費者物価上昇率を示す（表1）。

(2) メコン3カ国の人口の変遷と人口密度

メコン3カ国の人口と人口密度を見ると、人口は、この3カ国ではタイが最も高く、次に、ベトナム、カンボジアの順番となっている。しかし、人口増加率は、カンボジアが最も高く、次にベトナム、タイの順番となっており、3カ国とも人口は増加している。

これらのことから、当該地域では、人口は、増加しており、カンボジアの伸び率が他の2カ国と比較して高いことが明らかとなった。なお、人口密度は、ベトナムが最も高く、次にタイ、カンボジアの順番となっている。

(3) メコン3カ国のGDPの変遷

メコン3カ国の2013年のGDPは、タイが最も高く、ベトナムの約2.26倍の値を示している。また、メコン3カ国の2003年に対する2013年のGDP伸び率は、ベトナムが最も高く、次に、カンボジア、タイの順番であった。さらに、人口1人当たりのGDPもタイが最も高く、ベトナムの約3.01倍の値を示している。

これらのことから、2013年は、メコン3カ国では、タイがGDPが最も高いが、伸び率は、他の国よりも低いため、今後、ベトナムとカンボジアの経済成長が期待される。

表1 メコン3カ国の概要

	ベトナム	カンボジア	タイ
2013年の人口(千人)	89,709	15,079	67,4519
2003年に対する人口増加率(%)	111.48	116.88	104.06
2013年の人口密度(千人/km ²)	271.05	83.29	131.45
2013年のGDP(千ドル)	171,222,025	15,227,991	387,252,584
2003年対GDP伸び率(%)	400.83	326.90	271.49
2013年の1人当たりGDP(ドル/人)	1,908.64	1,009.91	5,741.21
2010年の主な産業のGDP割合(%)	農業:18.9 工業:38.2 サービス業:42.9	農業:36.0 工業:23.3 サービス業:40.7	農業:10.6 工業:40.1 サービス業:49.3
2000年の主な産業のGDP割合(%)	農業:24.5 工業:36.7 サービス業:38.7	農業:37.9 工業:23.0 サービス業:39.1	農業:8.5 工業:36.8 サービス業:54.7

出所: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>, <http://www.worldbank.org/ja/news/feature/2014/03/24/open-data-economy> <http://www.customs.gov.kh/publication-and-resources/statistics/> (2013年)。

(4) メコン3カ国の主な産業のGDP割合の変遷

メコン3カ国の2010年と2000年の農業、工業、サービス業のGDPの割合は、ベトナムは、2000年に比較して2010年の工業とサービス業の割合が高く、農業の割合が低くなっている。カンボジアは、3つの産業とも大きな変化は見られない。タイは、サービス業の割合が低くなり、農業と工業の割合は高くなっている。

これらのことから、カンボジアは、主要産業に大きな変化が見られないことが明らかとなった。

2-2. メコン3カ国の輸出入の実態と課題

(1) 主な輸出国と輸出品目

ここでは、統計資料から、メコン3カ国別に主な輸出入先、輸出品目を明らかにする(表2)。

ベトナムの主な輸出国は、アメリカ合衆国(以下、アメリカ)、日本、中華人民共和国(以下、中国)であり、この順で輸出額が多く、特に、アメリカへの輸出額が他の2カ国よりも大きい。カンボジアの主な輸出国は、アメリカ、グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国(以下、英国)、ドイツ連邦共和国(以下、ドイツ)、カナダ、日本であり、この順番で輸出額が多く、特にアメリカの輸出額が他の4カ国よりも大きい。タ

表2 メコン3カ国の輸出入の実態(%)

	ベトナム	カンボジア	タイ
主な輸出国(金額ベース)	・アメリカ(18.1) ・日本(10.3) ・中国(10.0) ・韓国(5.1) ・マレーシア(3.8)	・アメリカ(36.4) ・英国(11.5) ・ドイツ(8.8) ・カナダ(8.5) ・日本(4.7)	・中国(11.9) ・アメリカ(10.1) ・日本(9.7)
主な輸出品目(金額ベース)	・重工業品(45.0) ・軽工業品(37.8) ・農産物(10.6)	・衣類(91.0) ・履物(6.2)	・機械・機器・機械部品類(16.3) ・機械器具(12.9) ・自動車・同部品(11.5)
主な輸入国(金額ベース)	・中国(27.9) ・韓国(15.7) ・日本(8.8) ・台湾(7.1) ・タイ(4.8)	・中国(41.6) ・タイ(15.1) ・アメリカ(8.3) ・日本(8.0) ・韓国(6.5)	・日本(16.4) ・中国(15.1) ・アラブ首長国連邦(6.95)
主な輸入品目(金額ベース)	・原燃料(52.6) ・機械器具装置(38.3)	・自動車製品等(36.5) ・機械機器等(29.7) ・家庭用・工業用電気製品(12.9)	・石油、石炭(21.0) ・機械器具(14.8) ・機械・機器・機械部品類(12.7)

出所: http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=780 (2013年), <http://www.customs.go.th/wps/wcm/connect/custen/import-export/importer/importer2013>, <http://www.unctad.org/>。

イの主な輸出国は、中国、アメリカ、日本であり、この順で輸出額が多い。しかし、これら3カ国の間で大きな差は見られない。

主な輸出品目は国によって異なり、ベトナムは、重工業品と軽工業品の2品目で約90%以上の割合を占めている。カンボジアは、衣類のみで約90%の割合を占めている。タイは、輸出金額の割合が特に高い品目はなく、機械・機器・機械部品類、機械器具、自動車・同部品で多くの割合を占めている。

これらのことから、メコン3カ国で、輸出国と輸出品目が異なることが明らかとなった。

(2) 主な輸入国と輸入品目

ベトナムの主な輸入国は、中国と大韓民国（以下、韓国）である。カンボジアの主な輸入国は、中国とタイである。タイの主な輸入国は、中国と日本である。

主な輸入品目は国によって異なり、ベトナムとタイは、原燃料や石炭・石油の割合が高い。一方、カンボジアは、自動車製品等や機械機器等の輸入額が高い。

これらのことから、メコン3カ国では、国にかかわらず、中国からの輸入が多いこと、輸入品目は、国によって異なり、カンボジアは、他の2国と異なり、自動車製品等や機械機器等の輸入が多いことが明らかとなった。

(3) メコン3カ国の輸入額と輸出額の推移

メコン3カ国の2003年から2013年の輸入額の推移を見ると、タイとベトナムは、2009年を除き、増加傾向がみられる。一方、カンボジアは、この間わずかであるが増加傾向がみられる（図1）。

次にメコン3カ国の2003年から2013年の輸入額の推移を見ると、輸出額の推移と同様に、タイとベトナムは、2009年を除き、増加傾向がみられる。一方、カンボジアは、この間わずかであるが増加傾向がみられる（図2）。

3. 日本からメコン3カ国への輸出の実態

3-1. 日本からメコン3カ国への輸出額の変遷

ここでは、2003年から2013年の貿易統計の国別品別表と品別国別表のデータをもとに、日本からメコン3カ国への輸出額の変遷を集計した。

その結果、カンボジアは、この11年間で輸出額に大きな変化が見られない。ベトナムは、2008年までは増加傾向が見られ、2009年に一度大きく減少し、その後、増加に転じている。タイも、2008年までは増加傾向が見られ、2009年に大きく減少し、その後、増加に転じている（図3）。

次に、品目別の輸出額の変遷を見ると、日本からメコン3カ国への輸出額が最も多い品目は、機械類及び輸送用機器である。機械類及び輸送用機器は、2007年までは増加傾向が見られ、2008年から2009年まで減少した。その後、増加に転じている。次に輸出額が多い品目は、2010年までは、雑製品、食料及び動物であり、これらの2品目の輸出額に大きな差が見られなかった。しかし、2010年以降の雑製品の輸出額の伸び率が高い（図4）。

これらのことから、日本からメコン3カ国への輸出額は、概ね増加傾向が見られる。そして、主な輸出品目は、機械類及び輸送用機器であり、その輸出額も概ね増加傾向が見られる。ただし、2番目に輸出額の多い品目は、2010年を境に食料品および動物から雑製品へと変わった。これらのことから、メコン3カ国の主な産業が2010年頃から変わったことが想定される。

3-2. 日本からメコン3カ国への輸出量の変遷

ここでは、2003年から2013年の港湾調査年報のデータをもとに、日本からメコン3カ国への輸出量の変遷を集計した。

その結果、カンボジアは、この11年間で輸出量に大きな変化が見られない。ベトナムは、2003年から2013年まで増加傾向が見られる。タイは、2006年、2009年、2011年は減少しているが、それ以外の年は増加しており、2003年から2013年の間では、増加している（図5）。

図1

メコン3カ国の輸入額の推移

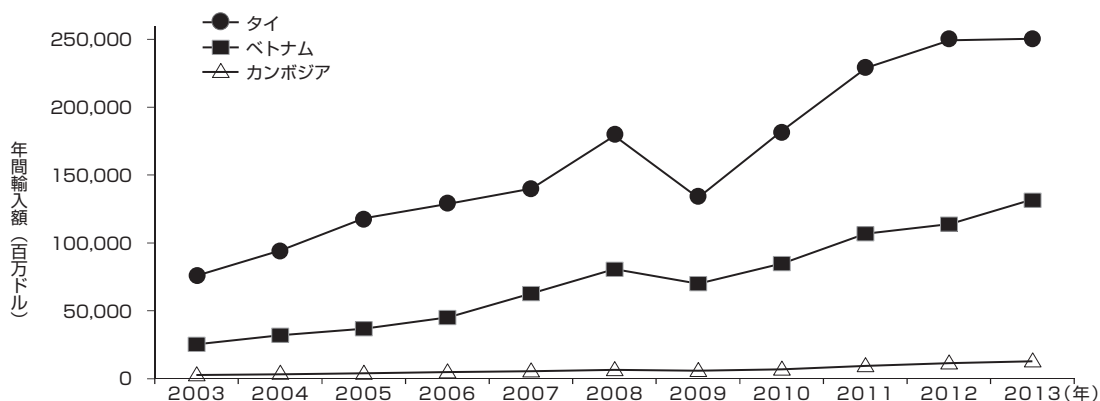
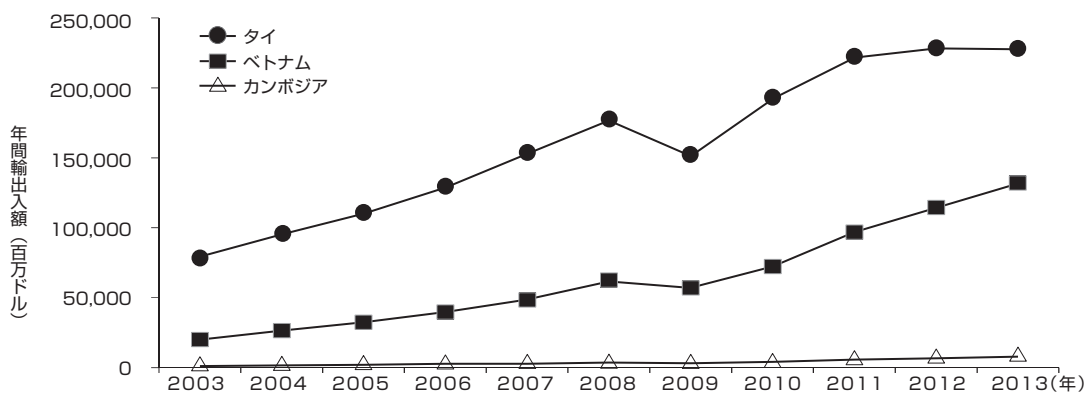
出所: <http://unctad.org/en/pages/statistics.aspx>

図2

メコン3カ国の輸出金額の変遷

出所: <http://unctad.org/en/pages/statistics.aspx>

次に、品目別の輸出額の変遷を見ると、日本からメコン3カ国への輸出額が最も多い品目は、金属機械工業品である。金属機械工業品は、2008年までは増加傾向が見られた。しかし、2009年まで減少し、その後、増加に転じている。次に輸出額が多い品目は、化学工業品である。化学工業品は、2009年と2011年と2012年に減少したが、それ以外は、増加している（図6）。

これらのことから、日本からメコン3カ国への輸出量は、2008年までは増加傾向が見られ、2009年に減少し、それ以降、増加傾向が見られる。しかし、2008年の輸出量までは回復していない。主な輸出品目は、金属機械工業品であり、その輸出量は、全体の輸出量と同様の傾向が見ら

れ、品目間の順位に変化が見られない。これらのことから、輸出量では、大きな変化が見られない。

4. メコン3カ国から日本への輸入の実態

4-1. メコン3カ国から日本への輸入額の変遷

ここでは、2003年から2013年の貿易統計の国別品別表と品別国別表のデータをもとに、メコン3カ国から日本への輸入額の変遷を集計した。

その結果、カンボジアは、この11年間で輸入額に僅かであるが増加傾向が見られる。また、ベトナムは、2008年までは増加傾向が見られ、2009年に大きく減少し、その後、増加に転じて

年	タイ (輸出)	ベトナム (輸出)	カンボジア (輸出)
2003	18,500	3,000	0
2004	22,000	3,500	0
2005	24,500	4,000	0
2006	26,500	4,500	0
2007	30,000	6,500	0
2008	30,500	8,000	0
2009	20,500	6,000	0
2010	29,500	7,000	0
2011	29,500	7,500	0
2012	35,000	8,500	0
2013	35,000	10,000	0

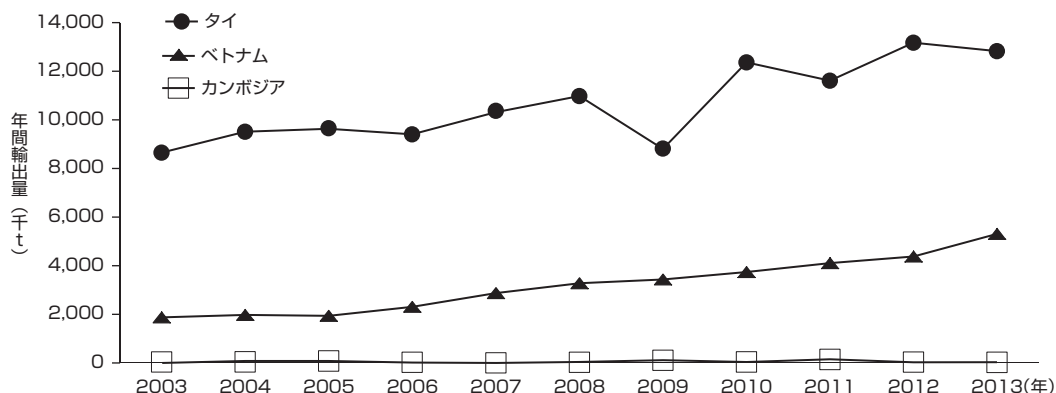
图 4

[illegible]

その結果、カンボジアは、この 11 年間で輸入量に大きな変化が見られない。ベトナムは、2008

図5

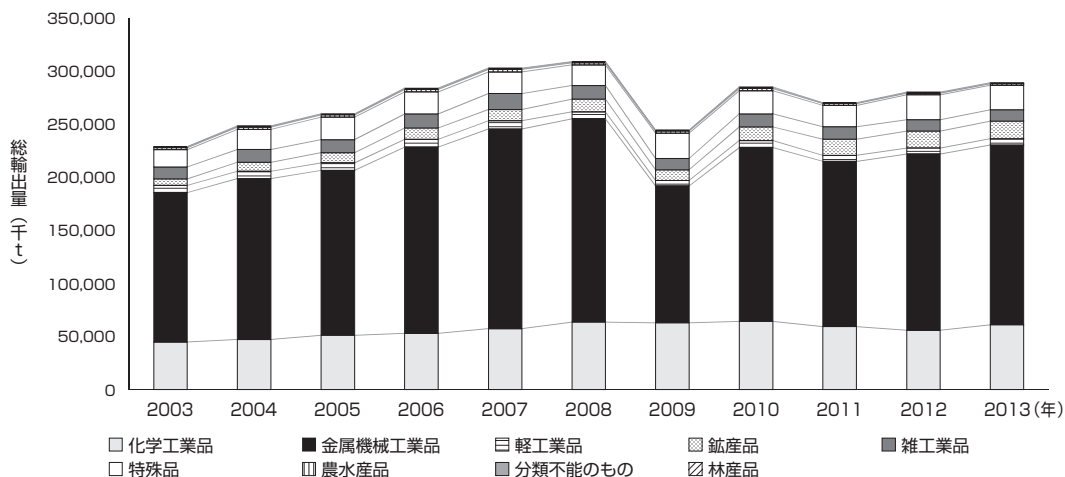
日本からメコン3カ国への国別の輸出量の変遷 (2003年から2013年)



出所：国土交通省「港湾調査年報」，各年版。

図6

日本からメコン3カ国への品目別の輸出量の推移 (2003年から2013年)



出所：国土交通省「港湾調査年報」，各年版。

年まで増加傾向が見られ、2009年に減少し、それ以降は、増加に転じている。タイも、2008年まで増加傾向が見られ、2009年に減少し、それ以降は、増加に転じている (図9)。

次に、品目別の輸入額の変遷を見ると、メコン3カ国から日本への輸入額が最も多い品目は、2012年までは鉱産品であり、2013年は林産品であった。鉱産品は、2008年までは、増加傾向が見られ、その後2010年まで減少し、それ以降2012年までは増加傾向が見られたが、2013年は、減少に転じている。林産品は、2004年まで増加傾向が見られ、それ以降2006年まで減少し、そ

の後、2009年に減少したが、それ以降、増加傾向が見られる (図10)。

これらのことから、メコン3カ国から日本への輸入量は、2008年までは増加傾向が見られた。しかし、2009年に減少し、それ以降、増加傾向が見られる。そして、主な輸出品目は、鉱産品であったが、2013年は林産品に変わった。これらのことから、メコン3カ国の主な産業が変わっていることが想定される。

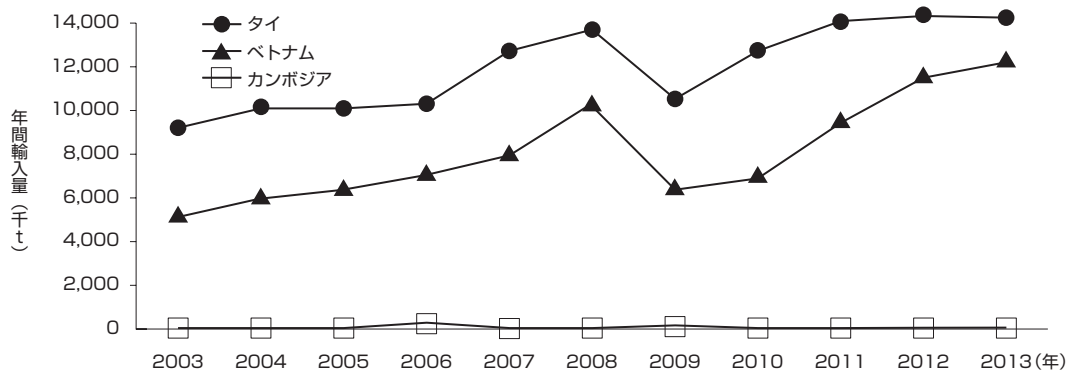
年	タイ (億円)	ベトナム (億円)	カンボジア (億円)
2003	13,500	3,500	100
2004	15,000	4,000	100
2005	17,000	4,800	100
2006	19,500	6,000	100
2007	21,000	7,000	100
2008	21,000	9,500	100
2009	14,800	6,200	100
2010	18,200	7,000	100
2011	19,500	9,000	200
2012	18,800	11,800	300
2013	21,200	13,500	500

图 8

[illegible]

図 9

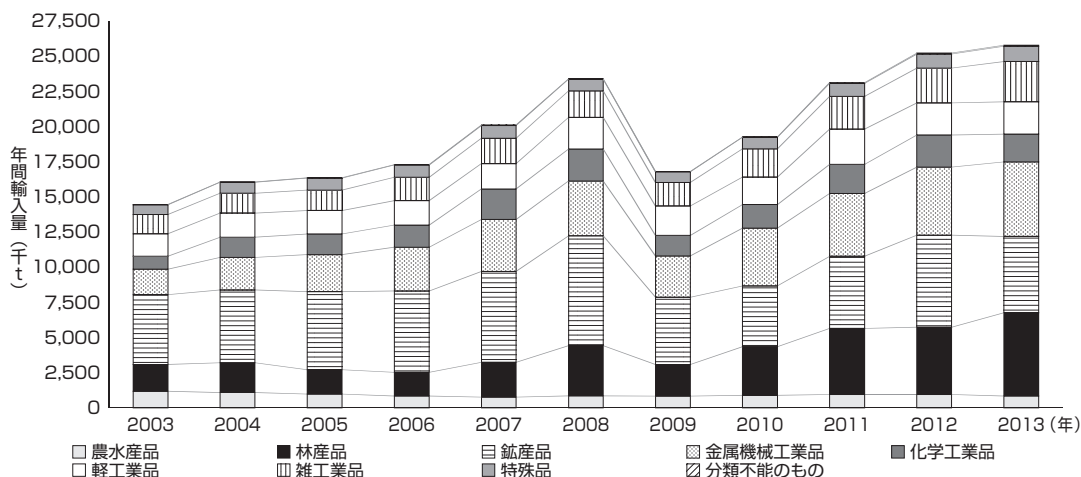
メコン3カ国から日本への国別の輸入量の変遷 (2003年から2013年)



出所: 国土交通省「港湾調査年報」, 各年版。

図 10

メコン3カ国から日本への品目別の輸入量の推移 (2003年から2013年)



出所: 国土交通省「港湾調査年報」, 各年版。

げた品目は、カンボジアの輸出額が、ベトナムとタイの輸出額に比較して小さい値を示していたため、ここでは除外し、ベトナムとタイの2003年と2013年の輸出額が多い上位3品目を対象とした (図12)。

その結果、国と品目にかかわらず、全て増加傾向が見られた。特に、ベトナムでは、機械類及び輸送機器、原材料製品の増加割合が高く、タイでは、機械類及び輸送機器、原料別製品、化学製品の増加割合が高い傾向が見られた。

5-3. 2003年と2013年のメコン3カ国から日本への輸入量の国別・品目別の特徴

ここでは、2003年のメコン3カ国から日本への国別・品目別の輸入量と2013年の日本からメコン3カ国への国別・品目別の輸入量の変化を明らかにするために、それぞれの年の国別・品目別輸入量を散布図で図示した。なお、ここで取り上げた品目は、各国の2003年と2013年の輸入量が多い上位3品目を対象とした (図13)。

その結果、タイの3品目 (金属機械工業品、軽工業品、鉱産品) は、増加傾向が見られる。しかし、ベトナムの鉱産品は減少している。また、そ

図 11

2003 年と 2013 年の日本からメコン 3 カ国への輸出量の国別・品目別の特徴

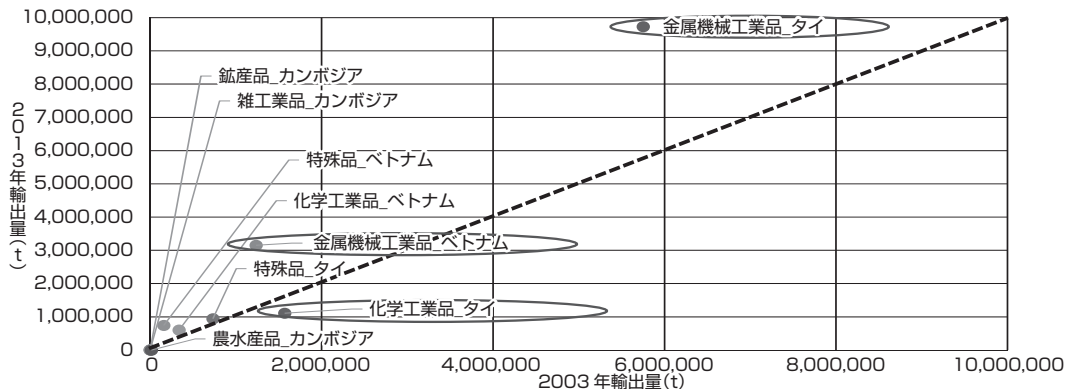
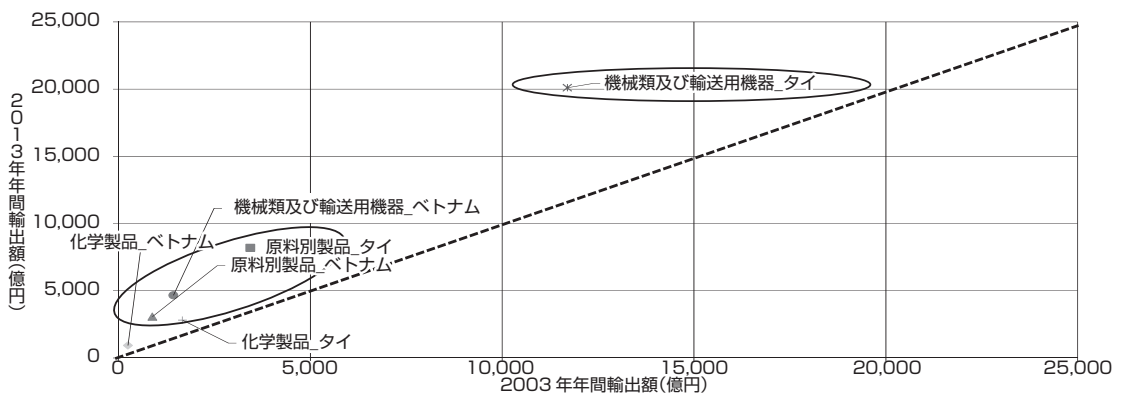


図 12

2003 年と 2013 年の日本からメコン 3 カ国への輸出額の国別・品目別の特徴



れ以外の品目は、大きな変化が見られなかった。

5-4. 2003 年と 2013 年のメコン 3 カ国から日本への輸入額の国別・品目別の特徴

ここでは、2003 年のメコン 3 カ国から日本への国別・品目別の輸入額と 2013 年の日本からメコン 3 カ国への国別・品目別の輸入額の変化を明らかにするために、それぞれの年の国別・品目別輸入額を散布図で図示した。なお、ここで取り上げた品目は、各国の 2003 年と 2013 年の輸入額が多い上位 3 品目を対象とした (図 14)。

その結果、国と品目にかかわらず、全て増加傾向が見られた。特に、ベトナムでは、雑製品、機械類及び輸送機器、鉱物性燃料の増加割合が高く、タイでは、食料品及び動物、機械類及び輸送機器の増加割合が高い傾向が見られた。

6. メコン 3 カ国の 1 億円当たりの輸出入トン数の変遷

ここでは、港湾調査年報と貿易統計で得られた、国別の年間の輸出入量を輸出入額が除することで、年別の 1 億円当たりの輸送トン数の変遷を求めた (図 15)。

その結果、カンボジアは、2003 年と 2013 年で比較すると輸出入ともに大きく減少している。ベトナムは輸入では、減少傾向が見られる。一方輸出では、2008 年まで減少傾向が見られたが、2009 年に増加し、それ以降は、大きな変化が見られない。タイは、輸出では、2007 年まで減少傾向が見られたが、2009 年に増加し、それ以降は、大きな変化が見られない。輸入では、2006 年まで減少傾向が見られたが、それ以降は、増加

図 13

2003 年と 2013 年のメコン 3 カ国から日本への輸入量の国別・品目別の特徴

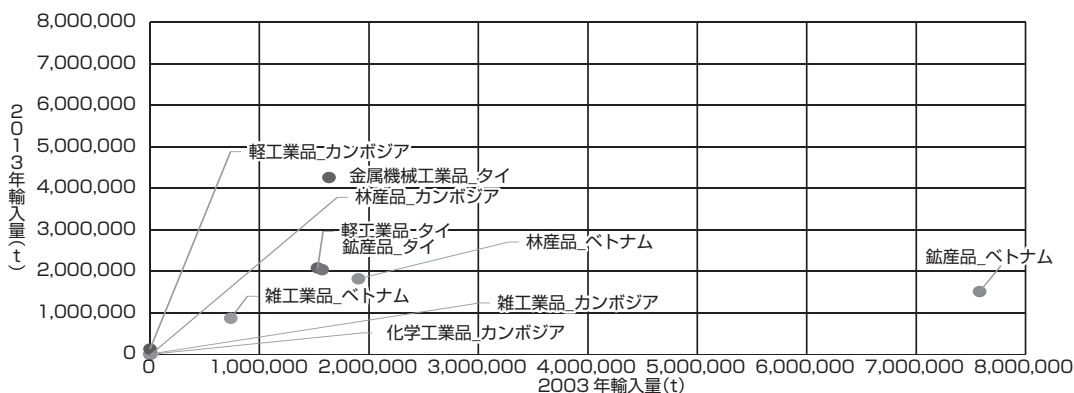


図 14

2003 年と 2013 年のメコン 3 カ国から日本への輸入額の国別・品目別の特徴

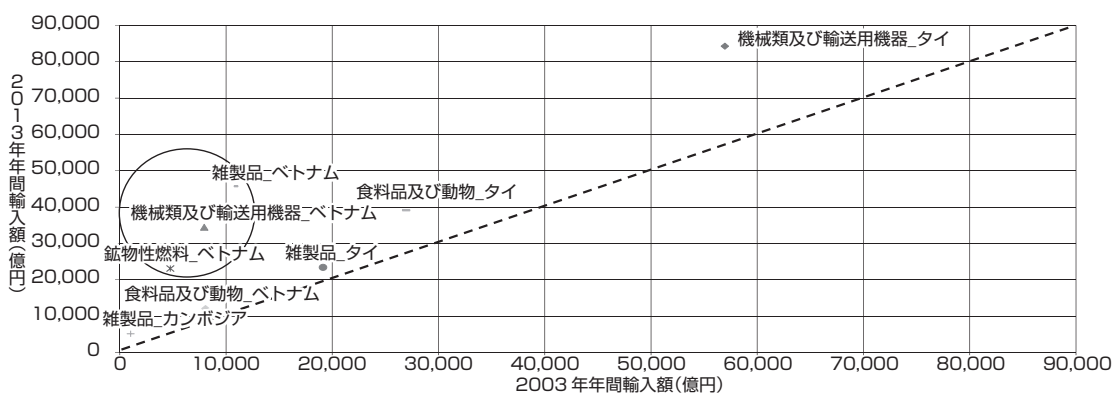


図 15

メコン 3 カ国の 1 億円当たりの輸出入トン数の変遷

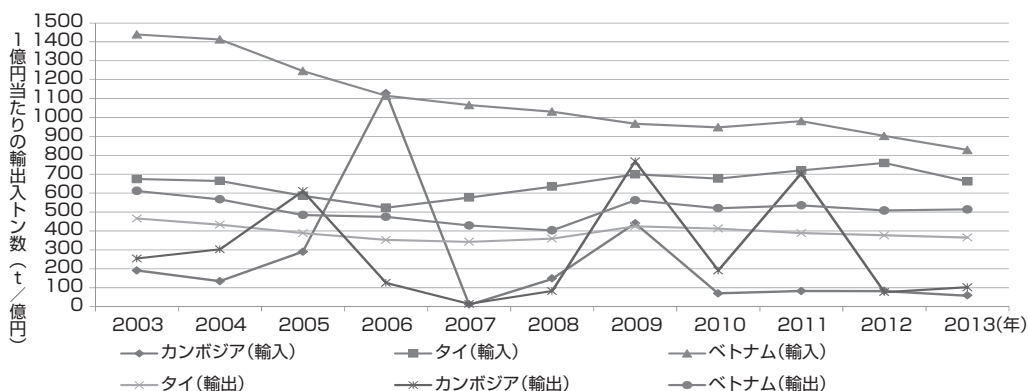


表3 2003年と2013年のメコン3カ国の1億円当たりの輸出入トン数の比率

	2003年 (t/億円)	2013年 (t/億円)	伸び率
ベトナム（輸入）	1439.18	828.47	0.58
タイ（輸入）	674.47	661.88	0.98
カンボジア（輸入）	190.37	59.14	0.31
ベトナム（輸出）	611.77	514.20	0.84
タイ（輸出）	466.04	365.44	0.78
カンボジア（輸出）	254.35	101.97	0.40

傾向が見られる。

次に、2003年と2013年の伸び率は、国・輸出入ともに1.00を割っている（表3）。

特に、カンボジアの伸び率が低く、輸出入ともに0.5を割っている。このことから、カンボジアは、輸出入ともに、2003年に比較して付加価値の高い製品の輸出入が増えていることが想定される。同様に、ベトナムからの輸入では、伸び率が0.6を割っていることから、2003年に比較して付加価値の高い製品の輸入が増えていることが想定される。さらに、ベトナムの輸出では、伸び率が0.84を示し、タイの輸出では、0.78を示している。これらのことから、カンボジアの輸出入とベ

トナムの輸入と比較して、率は低いが、2003年に比較して付加価値の高い製品の輸入が増えていることが想定される。一方で、タイからの輸入では、伸び率が0.98と高いことから、2003年と同様の価値の製品を輸入していることが想定される。

付記

本研究は、2015年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の補助金による調査研究活動の成果である。

参考文献

- <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>
- <http://www.worldbank.org/ja/news/feature/2014/03/24/open-data-economy>
- <http://www.customs.gov.kh/publication-and-resources/statistics/>（2013年）。
- http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=780（2013年）
- <http://www.customs.go.th/wps/wcm/connect/custen/importexport/importer/importer2013>
- <http://www.unctad.org/en/pages/statistics.aspx>。
- 財務省「貿易統計」，各年版。
- 国土交通省「港湾調査年報」，各年版。